



Yoshihisa Endo

国際北斎学会 専務理事
一般社団法人日本美術アカデミー 代表理事

遠藤 欽久 (藤ひさし)

1940年東京都生まれ。
映像作家、美術コンテントプロデューサー。
中央大学フランス文学科を卒業後、映像製作会社を設立。
海外の名だたる美術館と直接交渉し、契約を交わして
主要な所蔵作品をハイビジョン映像で撮影。
業界トップの撮影チーム、最新鋭の機材でプロジェクトチームを組み
最高峰の研究者による解説をつけた。
そのDVD全集「世界の美術館」は1991年に発売開始して以来
現在もなお他の追従を許さない。美術関連のDVD、テレビ番組、
書籍プロデュース、レクチャーなど、幅広く活躍している。
超人的な才能を持つ北斎の魅力の世界に向けて発信している。

劇団文学座に18年在籍、杉村春子に師事し、女優として活動する。
退座後、演技指導としてNHK大河ドラマに関わる。
舞台の演出、演技トレーナー、映画・舞台の衣裳プラン。
葛飾北斎、応為をはじめとする美術レクチャー、小説、戯曲創作と演出。



Hiromi Yasui

国際北斎学会 専務理事
一般社団法人日本美術アカデミー 代表理事
「お栄のひとり語り」脚本家

安井 ひろみ

今回の能と舞、語りで織りなす幽玄の世界、そしてファッションとのコラボレーションは、新しい形の文化を生む素晴らしい挑戦です。

こうした「知恵の差」が次世代に引き継がれて行き、未来に繋がる伝統文化を育てるのです。北斎は多彩な顔を持つ天才絵師で、着物の小紋のデザイン集や櫛、煙管のデザインを数多く出版しています。さらに「富嶽四十六景」をはじめとして日本中の風景を描いたことから隠密北斎とも呼ばれています。そして特筆すべきは、江戸に16000もあった寺子屋に絵手本を配り、子供たちを育てた教育者でもあったことです。

江戸の天才絵師の北斎は19世紀フランスの印象派を動かし、新しい文化の潮流アールヌーボーを生み出し、世界を席巻するジャポニスムの風を起こしました。これが北斎シンドロームと言われ、美術史を変えた大きな流れになったのです。特にパリ万博の時に、印象派のブラックモンが北斎漫画から多くの絵柄を絵皿に取り込み、その図柄の斬新さと素晴らしさに、デザイナー北斎としての名を轟かしたのです。娘のお栄を伴った父娘絵師です。そして、この北斎デッサンから、マネもセザンヌもゴッホも数多くの模写を残しています。ポスターを芸術にまで高めたと言われるロートレックもミューシャも北斎から強い影響を受けました。

北斎の「神奈川沖浪裏」はグレートウェーブと呼ばれ、ドビッシューは、この絵から「ラ・メール 海」作曲し、楽譜には自作の模写の波を描いています。マラルメ、エミールゾラもジャポニスムの芸術家たちです。このことをエドモンド・ド・ゴンクールは「北斎の絵は、今活躍しているあらゆる画家たちの絵の下絵であり、普遍的な作品だ。だがそのことを日本人は知らない」と語っています。

この舞台で、「北斎を巡る能楽と語り、ファッション」の世界が見事に融合したことは、世界に向けての最大の文化発信となりました。今後とも変わらず、日本美術アカデミー、国際北斎学会は全面協力いたします。全ての関係者と共に更なる高みに向かって進みたいと思います。

藤ひさし 安井ひろみ

北斎の織りなす、「日本の美。」



北斎画「牡丹に蝶」

未来を創る女性たちへのメッセージ

2022年はまさに激動の年でした。今、世界で起きている壮絶な出来事は、私たちにとって予想もつかなかったことばかりです。その中で「人」の営みは、素晴らしい未来に向かって確実に動き出しました。

今は女性の時代と言われます。それは何故でしょうか。女性は争わない、女性は守り育てる、女性は美しいものを受取る、女性は協調する。それが太古からの女性のお役目です。今日は、これからの未来を担う女性たちに、文化のシャワーを浴びていただきたいと思います。

わたしがこよなく愛する葛飾応為。お栄。北斎が唯一評価した天才女流絵師。応為は生涯、北斎と共に生き、北斎が亡くなった後、忽然と姿を消しました。ある意味、北斎と同じく「謎の絵師」なのです。

私はこの、「葛飾応為」に強く惹かれました。北斎を支えたその存在はとても大きかったと思います。

北斎と共に生きた応為はどういう女性だったのか、知りたい。そんな思いを込めて「北斎の娘、応為の一人語り」を書きました。

この一人芝居もまた、お栄の細やかな内面を書きたかった。彼女の絵には、豊かな感性とあふれるような優しさを感じます。天才絵師で、子どもをこよなく愛する北斎に慈しみ育てられたお栄。今日の舞台の一コマはそんな親子関係が良く出ています。北斎の得意な植物画の中でも特に有名な「牡丹と蝶」は素晴らしい瑞々しい作品ですが、その中には親子のこんなエピソードがあったに違いありません。私はそう確信しています。

劇作家・演出家
安井ひろみ

現在、フランスのアルゼス、リックスハイム職紙美術館で、日仏友好160年事業「子どものための北斎展」開催中。この地域はドイツ、スイス、フランスの三国が交わる地点です。アルゼスはゴールドントライアングルと呼ばれヨーロッパ、日本文化を積極的に発信しています。

主催:CHEIYA (欧州日本学研究所) samurai.jp 日本美術アカデミー 国際北斎学会



開催中!

現在フランスアルゼスで「子供のための北斎展」ゴールドントライアングルと言われる文化の発信基地アルゼスを始め、今後世界各地で北斎展が開かれます。「世界の北斎の風」に乗って、文化を日本から発信してまいります。